



2025年のマカイバリ茶園は、例年以上に変化の大きい一年でした。春は早<sup>かんぱつ</sup>魅、夏は異常な暑さに悩まされたマカイバリ茶園。秋に入ると空気が一気に澄み渡り、茶園全体が黄金色の光に包まれました。紅茶づくりにふさわしい気候にも恵まれました。気候変動が激しい中でも、自然は最後に必ず帳尻を合わせます。今年の秋摘みは、その自然のバランスがもたらした“特別な紅茶”です。爽やかで清涼感あふれる春摘みファーストフラッシュから果実味あふれる夏摘みセカンドフラッシュ、そして熟成された深い味わいの秋摘みオートムナルまで、2025年のそれぞれの季節をお楽しみいただけます。秋摘みはコクと甘味があり、深い味わいの中にも薔薇のような華やかな香りもお楽しみいただけます。一年の集大成ともいわれる秋摘みオートムナル。寒い冬に心と体があたたまる深い味わいのオートムナル紅茶をお楽しみください。

# 2025年秋マカイバリ茶園

Happy Hunterのオーナー石井博子。



## マカイバリ茶園訪問記

マカイバリ茶園の姉妹店であるHappy Hunterのオーナー・石井博子が2025年11月3日から7日まで秋のマカイバリ茶園を訪問しました！この時期はインドのお正月の時期でもあるダシエラ (Dussehra) もディワリ (Diwali) も終わり、秋摘みの最後の時期でもありました。茶園の人々はいつもあたたかく歓迎してくださり、私たちもいつも美味しい紅茶を送ってくれることに感謝の気持ちを伝えました。日本向け、そしてデリーのHappy Hunterの紅茶はいつも特別のロットです。



雲一つない晴天のもと、一気に新芽を芽吹かせました。

## サンジャイ・ダス氏の異動

長年にわたりマカイバリ茶園のマネージャーとして現場を支えてきたサンジャイ・ダス氏は、このたびマネージャー職を離れ、新たにシリグリ・オフィスの販売部門を担当することとなりました。茶園で培われた豊富な経験と深い知識は、すでに新任マネージャーであるピカス氏にしっかりと引き継がれており、今後の茶園運営と紅茶の品質管理に生かされていきます。

また、サンジャイ・ダス氏は新しい部署に移った後も、日本向けの紅茶の選別や品質確認に引き続き協力いただけることが決まっております。長年日本市場をよく理解し、マカイバリジャパンとともに歩んできた同氏のサポートは、これからのマカイバリ紅茶の品質維持において大きな力となります。



サンジャイ・ダス氏。(写真右)



茶摘み女性は徒歩で森を抜けて茶畑に着き、再び森の中を歩いて隣の茶畑に移動します。



## 茶園散策 | 文: 石井博子 | Happy Hunter オーナー

マカイバリ茶園の敷地は、東京ドームの約145倍。670アールの敷地の3分の1 (270ヘクタール [ha]) を茶畑に、残りの3分の2 (400ha) を原生林のまま残し、その森には無数の野生動物が息しています。

茶畑、森、茶畑、村、そして森の繰り返し。車で入れるところはほんの一部ですので、茶摘み女性は徒歩で森を抜け茶畑に着き、再び森の中を歩いて隣の茶畑に移動します。森の生態系は守られ、動物たちの食糧 (食物連鎖の下位の動物) は確保されているので、虎やヒョウが人間を襲うことはありません。今回私は見ることができませんでしたが、私が来る前日にホーンビル (サイチョウ) が2羽、目撃されました。茶畑を歩いていると、



新しいジェネラル・マネージャーに就任したピカス氏。

## 新しいマネージャー就任

2025年8月以降、マカイバリ茶園はピカス氏 (Mr. Vikas) が新しいジェネラル・マネージャーとして茶園の指揮をとっています。ピカス氏は約40年にわたり数々の茶園で経験を積み、今まで以上に美味しい紅茶がつくられています。



ピカス氏 (写真中央)、工場のスタッフと石井博子。



新体制のメンバー (写真左から) ヴィダン氏、ルスタム氏、石井博子、新マネージャーのピカス氏。



携わっており、ダージリンで生まれ、茶園の中で育ちました。マカイバリ茶園で働く人たちと同じ言葉、同じ文化を共有しています。新体制になったマカイバリ茶園。ピカス氏のきめ細かい指導のもと、今まで以上に美味しい紅茶がつくられています。



マカイバリ茶園の工場。



工場の前にある建物でテイスティングを行います。



テイスティングをする石井博子。



茶園の敷地の3分の1を茶畑に、残りの3分の2を原生林のまま残しています。



茶園の中でホーンビルが目撃されました。



## Happy Hunter 13周年 | 文: 石井博子

# 2025

年11月21日、お陰様でHappy Hunterは創業13周年を迎えました。またHappy Hunterの母体である Ishii Trading Private Limited (本社・ニューデリー) は6月1日に創業25周年を、日本の姉妹会社であるマカイバリ茶園日本総代理店・有限会社マカイバリジャパン (本社・東京) は5月29日に創業25周年を迎えました。多くの皆さまに支えていただき、この日を迎えることができました。心より深く感謝申し上げます。

「人」と「植物」と「動物」が共存共生し、持続可能な茶栽培をおこなうマカイバリ茶園に出会ったのが1997年。私は茶園の取り組みに強い感銘を受けました。

当時の茶園主ラジャ・パナルジー氏は「あなたの街で、あなた自身のマカイバリをつくりなさい。」「世界中にたくさんの小さなマカイバリがつけられれば、世界から貧困はなくなるだろう。」

幼少の頃と多感な中学高校時代をインドで過ごした私にとって、将来インドと関わる仕事をするのが夢でした。そしていつか、自分自身のマカイバリをつくらう。そう夢見ていました。

2012年11月21日。私の小さなマカイバリ、「Happy Hunter」はスタートしたのです。インド中の希望溢れる生産者の皆さんの手仕事をHappy Hunterでご紹介したい。有機農法、フェアトレード、環境保全を実践する生産者の方々とともに、ものづくりをしたい。そしてHappy Hunterは生産者の皆さんと長期の取引を約束する。

13年が経ち、生産者の皆さんの生活が豊かになり、Happy Hunterの店舗には世界中の方が訪れ笑顔が溢れている。私の中の「マカイバリ」は歩み続けています。13年目のHappy Hunterも、生産者の皆さんとともに素晴らしい作品をお届けしてまいります。引き続きHappy Hunterを応援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。(2025年11月21日)

